

友情、ほほえみ、フェアプレー

岩見沢市バスケットボール連盟

市内で行われている活動から二つ紹介します。

★岩見沢ミニバスケットボール少年団

市内の競技人口の底辺拡大などを図るため、平成17年10月に行われた体育の日記念大会を通じて市内全域から団員を募集、翌年4月に50名を超える人数で少年団が結成されました。

最初の大会では連戦連敗、それも大きく点差をつけられ、選手、保護者、指導者とも心が折れそうになりましたが、「試合後の笑顔のため」という少年団の団旗の言葉を胸に諦めないで取り組み、8年目を迎えることができました。

今年度は、男女合わせて33名が学校開放を利用して週4回練習しています。送迎などで協力してくださる保護者の皆様には感謝の気持ちで一杯です。6月の南空知地区大会で女子が初優勝し、北海道大会に出場しました。4試



北海道大会

合で1勝3敗でしたが、子どもたちには試合の結果以上に得るものがたくさんあったことと思います。11月には6年生最後の地区大会が始まります。今度は男女で北海道大会に出場できるように、団旗の言葉を忘れずに練習を積んでいきます。

★バスケット

平成22年3月に教育大学岩見沢校の地域連携活動の一環として、小・中学生のスキルアップを目指してスタートしました。翌月から「バスケット」という名称で、月2回、年間20回程度、同校バスケットボール部や地元クラブチームの協力を得て開催しています。

現在、初めてボールを触る子どもから部活動後の中学生まで30〜40名という幅広い年齢層が集まって活動しています。市内だけでなく、夕張市、美幌市、札幌市、恵庭市など市外の子どもたちも多く参加しており、昨年3月には「第1回オニオンカップ大会」を開催するなど、地域や近郊の子どもたちが参加できる活動として続けています。



第1回オニオンカップ大会

合唱におもいを寄せて

コールアイリス

私たちコールアイリスの活動としては、5月に「合唱の集い」があり、中学校の合唱部、混声合唱団など各団体と交流しています。

ファイナーレでは「交響詩岩見沢」を参加者全員で歌います。この曲は、加藤愛夫さんが作

詞され、1973年に川越守さんによつて作曲されたもので、岩見沢を開拓した先人の夢と希望がつづられています。今年も岩見沢市開基130年の式典の中で歌われることになっています。



全日本おかあさんコーラス全国大会

7月には全日本おかあさんコーラス北海道支部大会があり、毎年参加しています。2011年には念願だった4度目の全国大会に出場し、九州の福岡シンフォニーホールで委嘱曲「風の季節・花の季節」を演奏することができました。

10月の文化連盟主催の市民の文化祭では、楽器を演奏する団体、合

唱をする団体など音楽を愛する仲間と交流を深めています。

私たちコールアイリスは、町内会の婦人サークルとしてスタートして今年で55年になり、10月5日に創立55周年記念演奏会を開催する予定です。年を重ねて歌い続けてきた私たちが情熱タツプりに指導してください。横山義子先生の発案で、作曲家として活躍されている寺嶋陸也さんを客演ピアノストとしてお迎えし、合唱（うた）とともに未来の子どもたちにメッセージを送りたいと思っています。

また、先生から「チクチクキモノプロジェクト」のお話をお聞きして共感した私たちは、「忘れてはいけない」2011年の震災の記憶を残すため、津波で流された着物の端切れを使い、一針一針心を込めてタペストリーを縫い上げ、札幌の「ギャラリー門馬」と岩見沢の「まなみーる」に展示する活動も行いました。今後合唱を通して、「繋がる」伝える「喜び」を仲間と一緒に広げていきたいと思っています。

